

令和2年度 大田区立久原小学校 自己評価 報告書

令和3年4月12日

○ 本校の概要

○児童数840名(9月1日現在)を数え、第1学年5学級、第2～6学年各4学級、全25学級の規模の大きい学校である。本校は、「丁寧な挨拶の励行」に重点をおき、学校教育目標にも「礼儀正しい子」を加え、定着を進めている。7月に実施した「学習・生活をふりかえって(児童の自己評価)」では、「自分から進んで挨拶をしていますか」の問いに、90%の児童が「あてはまる」と答えており、日常生活の中でもよい変化が見られている。引き続き、「相手に届く挨拶」「はっきりした返事」が定着するように指導を進めていく。また、「廊下や登下校の歩行」については、90.7%の児童が肯定的な回答を示しており、うち、54%の児童が「よくあてはまる」と答えている。昨年度比10ポイント以上の増となっており、集団生活のマナーや登下校の安全に係る意識が高まっている様子が見られる。

○地域やPTAは大変協力的で、学校の教育活動に積極的にかかわってくれる。学校支援地域本部(スクールサポートくがはら)の活動も充実しており、地域と協働した教育活動が定着している。

○「豊かなスポーツライフを楽しめる子～主体的・対話的で深い学びの実現(体育・健康教育を通して)～」をテーマに、体育科を中心に校内研究を進めている。研究授業はもとより、体育実技研修会や保健講話を設定し授業力等の向上を図っている。社会科では「都道府県検定」を実施し、基礎基本の確実な定着を進めている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
ブラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にふさわしく対応する子どもと自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:児童の自己評価において、「自分から進んで挨拶をしている」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が80%以上。	4	今年度より教育目標に「礼儀正しい子」の項目を加え、挨拶の定着を重点目標として取り組んでいる。児童を対象とした学校生活アンケートでは、90.2%の児童が「自分から進んで挨拶をしている」と答えている。また、保護者アンケートでは「久原小は挨拶する子供が多い」の問いに73.5%の保護者が肯定的に捉えており、昨年度と比較し11.5%の向上となった。「相手に伝わる挨拶」が定着しつつある。今後も、相手の顔を見て挨拶したり、会釈したり、はっきりと返事をしたりなど、相手を意識した挨拶の定着に力を注いでいく。	A	11	・今年度は児童が率先して挨拶する場面をよく目にする。人と話をするときは、相手の顔を見ることの大事さを児童に伝えてほしい。 ・コロナ禍で心配された自宅学習による対人関係の構築は小学生の持ちが影響が少なかつた気もします。先生の努力が感じられて温かい気持ちになります。 ・久原フェスタを経験することでコミュニケーション能力が身につくと思う。また、人前で発表することで礼儀に対して大事さを感じてほしい。 ・校長先生から率先して取り組んでいる姿があらこちで見られました。 ・朝の見守りの際「おはようございます」と大きな声で挨拶できる子供が多い印象です。マスクで声が届きにくいことを理解すると挨拶の上手な子供が増えると思います。 ・挨拶についての児童対象アンケートで1年生の割合が低かったため保育園での挨拶を丁寧にしてほしいと思います。 ・登下校時や学校行事に参加する際など良い意味で挨拶が飛び交っている印象があります。先生方の意識的な取り組みが学校の雰囲気や昇進した良い例だと感じています。そういった空気に触れた子供たちがさらさら良い雰囲気をつくる連鎖が継続するよう取り組んでいただき、また出張所としてもそれに協力していきたいと考えています。 ・コロナ禍での教育お疲れ様でした。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3:児童の自己評価において、「自分から進んで挨拶をしている」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が70%以上。					
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	2:児童の自己評価において、「自分から進んで挨拶をしている」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が60%以上。					
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:児童の自己評価において、「自分から進んで挨拶をしている」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が60%未満。					
ブラン2 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2	4:児童の自己評価において「学校での勉強や生活に一生懸命取り組んでいるか」の項目に「よくあてはまる」と回答した児童の割合が65%以上。	4	学習カルテを用いた、一人一人に合った学習方法についての指導は、十分でないところもあった。今後は、算数ステップ学習の電子化に伴い、タブレットを活用した学習も進めていく。併せて、学期末の振り返りを通して、自分に合った学習の仕方を指導していく。 昨年度から取り組んでいる都道府県検定(4年生以上)では、87.9%の児童が合格することができた。昨年度比で16%以上の向上が見られ、定着が進んでいる。今後は、特産品や県庁所在地など、幅を広げた都道府県検定を検討していく。 保護者アンケートでは、88.7%の保護者が「子供は勉強がよく分り基礎学力がついている」と答えている。	A	10	・児童の自己評価が65%以上で「4」と判断するほど「勉強や生活に一生懸命に取り組んでいる」の割合を上げていくことが難しいと考えられていると思われるが、2学年以上が90%を超える回答結果に驚いています。都道府県検定に代表される目標つくりとモチベーションの高め方が自己評価につながっているのではないかと思います。 ・久原フェスタの様子から日々の学習の成果を感じました。 ・クイズブームの中、ゲーム感覚を楽しみながら覚えることができる都道府県検定はとても良い。 ・都道府県検定など子供たちの学習意欲(合格したい!)を刺激する取り組みはとても素晴らしいと思います、ぜひ広げてほしい。 ・とてもきめ細かい指導が各教員の方々にも浸透していました。 ・児童アンケートで学校は楽しいですかについて肯定的な回答が84%とやや低い、何が原因なのか調べる必要は?・それぞれの個性がある中、一人一人を孤立させない対応を考える大切さ。タブレットを活用しての授業等の多様化した知識向上努力に感謝です。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:児童の自己評価において「学校での勉強や生活に一生懸命取り組んでいるか」の項目に「よくあてはまる」と回答した児童の割合が5%以上。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:児童の自己評価において「学校での勉強や生活に一生懸命取り組んでいるか」の項目に「よくあてはまる」と回答した児童の割合が45%以上。					
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	2:児童の自己評価において「学校での勉強や生活に一生懸命取り組んでいるか」の項目に「よくあてはまる」と回答した児童の割合が45%未満。					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:児童の自己評価において「学校での勉強や生活に一生懸命取り組んでいるか」の項目に「よくあてはまる」と回答した児童の割合が45%未満。					
ブラン3 豊かな心を育むこと、豊かな心をはぐくみます。	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:児童の自己評価において「学校は楽しいですか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合が90%以上。	3	道徳の授業を全学級で公開し、参観を通して研修を深めている。道徳授業地区公開講座では、学習したテーマについて家庭で話し合う機会を設け、親子で道徳性の涵養について考える取組とした。 縦割り班活動を「きょうだい学級活動」とし、2学級の交流とした。ペアと固定することで、より深いかわり合いが生み出されている。 いじめ調査を学期に1回全学級で行い、いじめの早期発見・解決に取り組んだ。そこで得た情報を学校全体で共有するとともに、問題行動にかかわる事案も合わせ、ケース会議や校内委員会を通して組織的に解決を図っている。今後は早期に発見し、組織的に解決を図っていく。	A	11	・自己評価が90%以上に達する学年がなく残念ですが、保護者アンケートの「楽しく学校生活を送っている」の項目が元年度、2年度ともに90%を超えていることを踏まえると、「楽しい」と答え方が子どもと保護者では違っているのでは?と思われる。経年比較に支障のない範囲で自己評価の質問事項を少し変えてみる(補記など)と回答が変わってくるのではないかと思います。 ・授業で学習した内容を家庭で話し合う機会を設け一緒に考えるようにされた事は子ども、保護者、双方にとって良かったと思えました。 ・毎日楽しく学校に行っている子どもたちが多くいることは、先生方の指導のおかげだと思います。それでも、いじめ問題が起こります。小学生の場合は、早期対処が大事です。 ・朝の見守りの時の子供同士のトラブルに対する対応がとても速く、また相手の気持ちをよく考慮されるように指導していただいている点も保護者として安心できます。 ・とても難しいテーマにも積極的に取り組み、子供たちにもそのテーマに真摯に向き合い、相互に考える姿勢が良いと思えました。 縦割り班活動は大変良い試みだと思ふ。一人っ子も多い中、違う年の子との交流が心を育てると思う。 ・私から見たら、先生方の仕事量の増えている中、自分の子育ての時から見たら大分極め細やかな指導を頂いている様に見えますが、尚向上を目指し成果評価を3にしているのは頭が下がります。
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	3:児童の自己評価において「学校は楽しいですか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合が80%以上。					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 ※:必要な事案に対して必ず協議を実施し、組織的に対応しなす。 3:必要な事案に対しておたの会議を実施した。	4	2:児童の自己評価において「学校は楽しいですか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合が60%以上。					
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	2:必要な事案に対しておたの会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	1:児童の自己評価において「学校は楽しいですか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合が60%未満。					
ブラン4 体力的向上と健康の増進	スポーツに親しむの育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:児童の自己評価において「運動することは好きですか」の項目に「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童の割合が80%以上。	4	年間を通して取り組む校内研究会の教材を体育科に設定し、食育や保健領域についても一年間研究してきた。授業だけでなく、休み時間や朝の時間等に体育的活動を取り入れ、体を動かす習慣を身に付けるようにしてきた。「運動することは好きですか」の問いに89%の児童が肯定的に捉えている。特に、研究を深めた領域では、実施前に比べ10%を超える意識の変容が見られ、改めて授業改善の効果を感している。今後は、家庭・地域と協働して体力・運動能力・健康の向上に取り組んでいく。	A	10	・自己評価に関するアンケート項目が見つからなかった。ただ久原フェスタでの「和食VS洋食」など様々な学年で食べ物を扱った研究発表が多量であったのは食育の成果ではないかと思ふ。コロナ禍にあって、運動会を成功させた学校関係者に敬意を表します。 ・校庭の工事や社会状況により体を動かす場所や時間を確保することが難しく一年でしたが、運動会を見せただけで、又校内研究の報告をうかがい、様々な工夫をされ取り組まれたことがわかりました。 ・文武両道 ・コロナ禍で生活が乱れがちになる中、「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣が守られていることは保護者の努力を感じる。 ・運動が得意ではない娘からも体育が楽しい(バレー、バスケット)と聞きます。とてもありがたいと思っています。 ・体力の低下が全国的な問題になっている中、他校からの協力を得つつ子どもたちの体力増強に取り組んでいます。 ・研究を深めた領域で実施前に比べ、10%を超える変容が見られた事で常に授業改善の意識をもっている事が理解できた。 ・コロナ禍で大変難しい1年だったと思います。来年度はもっともっと体を動かせるようになってほしいです。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	3:児童の自己評価において「運動することは好きですか」の項目に「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童の割合が70%以上。					
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	2:児童の自己評価において「運動することは好きですか」の項目に「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童の割合が60%以上。					
		校内研究会や体育実技研修会等で学んだ成果を自身の体育授業に生かす。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	1:児童の自己評価において「運動することは好きですか」の項目に「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童の割合が60%未満。					
ブラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者のアンケートにおいて「学校は教員が工夫し、分かりやすい指導をしている」「学校全体の雰囲気がある」と回答した割合が90%以上。	4	児童一人一人にタブレットが貸与されたことにより、ICTを効果的に活用した授業の向上を目指し、教員に渡り研修会を開催した。また、常設の情報部会では、効果的な指導方法について検討するとともに、その都度学校全体で共有し、活用の幅を広げることができた。現在、個別に最適化された教材の開発や、オンライン教育環境の構築を図っている。今後は研修会やOJTを通して、効果的な活用方法を定着させていく。 特別に配慮が必要な児童や保護者に対し、スクールカウンセラーを始め、多くの機関とケース会議を開き、対応を協議した。	A	11	・保護者アンケート結果を見ると学校全体の雰囲気が活気という面では非常に高い評価を得て、自分の子の様子から類推する保護者も多いと思われるので、学校の雰囲気＝子どもの雰囲気と置き換えてもよいと思います。1人1台タブレット配布による個別最適化の取組が実施され、際限なく伸びてきている様子や久原フェスタ等の見学よりわかりました。 ・完璧な教育を目指すどこかで歪みが生み出されるので余裕の教育を。子どもたちもタブレットを貸与されたことで、先生方の仕事が増え、ご苦労おかけしますが、配慮が必要な子どもたちに対して、やさしく対応してほしい。 ・久原フェスタで子どもたちがタブレットを使用、使いこなしている姿は頼もしかった。また特別に配慮が必要な児童の対応をねばり強く行われており、先生方の子どもへの愛情を感じます。 ・タブレットの活用有効にできており、校内の掲示物、発表会にも子供たちがしっかり理解し、使っている姿が楽しく見られた。 ・タブレットが配られた教育にこころにあった指導が求められる中、それに伴い学校でのネット環境の整備が急務になる。 ・生き生きとした生徒さんの表情に安心しますが、自分を表現出来ずに居る人にも目を配って頂けたら嬉しい。個性を伸ばす方向の教育を伸ばして頂けたら良いですね。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3:保護者のアンケートにおいて「学校は教員が工夫し、分かりやすい指導をしている」「学校全体の雰囲気がある」と回答した割合が60%以上。					
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:保護者のアンケートにおいて「学校は教員が工夫し、分かりやすい指導をしている」「学校全体の雰囲気がある」と回答した割合が70%以上。					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	1:保護者のアンケートにおいて「学校は教員が工夫し、分かりやすい指導をしている」「学校全体の雰囲気がある」と回答した割合が60%未満。					
ブラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	3	4:保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を公開して学校の様子がよくわかる」「学校は子供のことについて相談しやすい」と回答した保護者の割合が90%以上。	4	保護者アンケートでは「学校はPTAや地域と協働し、日頃の教育活動や安全な学校生活の充実に取り組んでいる」の問いに93.6%の肯定的な評価があった。登下校時の安全指導、コロナ禍での運動会や作品展、久原フェスタ等の学校行事の運営について、PTAと協働し、児童の健康と安全を守る対策を講じることができた。今後は保護者や地域と連携を深め、協働的に取り組んでいく。 93%の保護者が「学校は子供のことについて相談しやすい」と感じている。今後は信頼される学校づくりを推進する。	A	10	・PTA会長を中心としたPTAによる地域交流の志向やコミュニティスクールの説明時に協議委員会から出た意見などを踏まえて「学校から地域へ」という面と「地域から学校へ」という面のバランスの良さとも意識の高さを感じることができました。 ・コロナ禍においても様々な行事を工夫し保護者の方と協力しながら実施されたことは、素晴らしいと感じました。 ・親にも学校が中々ではないという教育も必要なのは、コロナ禍の中、PTAの協力のもと、工夫された運動会ができたことがとても良かった。来年度は、地域として何ができるか考えていきたい。 ・いつも十二分すぎるほどPTA活動に御理解いただき、正しく協働できていると感じています。ありがたいです。 ・PTAやおやしの会との協力関係が有効にできており、学校運営がスムーズにできていると思います。 ・保護者アンケートでの日頃の活動に93%以上の肯定的な評価があり引き続き地域として学校に協力していきたい。 ・家庭・学校で補いきれない部分を地域の一員として力になれたら良いなあ!と常日頃考えます。コロナ禍で地域イベントが減ってしまいましたが来年度は努力します。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	3:保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を公開して学校の様子がよくわかる」「学校は子供のことについて相談しやすい」と回答した保護者の割合が80%以上。					
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	2:保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を公開して学校の様子がよくわかる」「学校は子供のことについて相談しやすい」と回答した保護者の割合が70%以上。					
		ゲストティーチャーを招聘しての授業や夏休みみどキドキ学校のワークショップ、各行事等を通して、保護者・地域との連携を深める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2	1:保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を公開して学校の様子がよくわかる」「学校は子供のことについて相談しやすい」と回答した保護者の割合が60%未満。					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。